

学校教育目標：「向学 自主 協働」

校訓：「夢を実現」



川通中だより

令和8年3月2日 第11号
さいたま市立川通中学校
TEL 048(799)1061
川中キャラクター ホームページ



～スローガン：「一生懸命はかっこいい」～

「好きなことにトライ」

校長 鈴木 純

神奈川県では、早咲きの桜が彩りを与え、静岡の河津桜は、もう満開を迎えているとのこと。近所に咲いているしだれ梅は頬紅のような淡い色合いの花が開き、春の訪れを感じるころとなりました。

イタリア、ミラノのコルティナオリンピックでは、日本人選手の活躍ぶりに驚くとともに日々ドキドキしながら競技の行方を観戦していました。選手一人ひとりには数えきれないほどのエピソードがあると思いますが、4年に一度のオリンピックのために自分の「好き」を突き詰め一生懸命に競技に没頭する姿は、とても素敵でした。

さて、「好き」を突き詰めることに対して、ふと思い出したのが、ドローンにまつわる二つの話です。一つ目は、数年前の某通信会社のCMです。そのCMの概要は、3年ぶりに、離れて暮らしているおじいちゃんとおばあちゃんの家にお孫一家が訪れます。主人公である孫は、「おじいちゃんは、ドローンの人になっていた」とつぶやきます。おじいちゃんからプレゼントされたドローンの模型を嬉々として操縦する孫のカットの後、おじいちゃんが本物のドローンのパイロットとなって農業に活用している凛々しい姿が映し出され、孫目線から新たな挑戦をするおじいちゃんの姿に驚くとともにあこがれる様子を描いたものです。

二つ目は、「好き」を突き詰め、仕事にされたドローンパイロットの男性の話です。この男性（当時20代）は、病気が原因で小学校にほとんど通うことができませんでした。急に吐き気をもよおす周期性嘔吐症でした。「不登校だったから、文字の読み書きができない、勉強についていけない」と、つらい小学校時代を過ごしました。しかし、特別支援学校3年生の時に、読み書きができなかった理由が別にあることがわかりました。「識字障害」という学習障害の一つで、文字の読み書きに限定した困難がある疾患でした。その当時の担任の先生から、「やれることを伸ばしなさい。できないことはそのままにしておきなさい。」という教えのもと、文字は読めませんが耳から入ってきたものはよく理解でき、記憶力もよかったことから、小さいころから好きだった飛行機・ヘリコプター・鳥などについて、YouTubeを見て飛行のメカニズムなどを調べていくうちに「ドローン」と出会いました。「ヘリコプターのパイロットになりたい」しかし、識字障害が立ちはだかり、かなうことができません。「せめて、パイロットの目線だけでも経験したい」という思いから、海外から材料を取り寄せ、自分でドローンの機体を作製しました。モニターの映像を見たときの達成感から、「これを仕事にできればいい」と卒業文集に書いたそうです。それからはドローンに夢中になり、家族の助けもあって、気が済むまでやらせてもらいました。

ドローンの競技大会では日本チャンピオン、アジア大会では第8位となりました。そのうち、ドローンを活用した映像撮影の仕事が舞い込むようになったそうです。「自分のやりたいことを口に出して、みんなに伝えることが大事」と、可能性を広げ、現在は父親と起業し、老朽化した橋梁の点検や機体開発、操縦者の養成も手掛けるほどになりました。

やりたいことが見つからない人には「なんでも疑問に思うこと」そして「今できることを目いっぱいやって、できないことはさっとあきらめる。それが私の生き方です。」と、男性は語っています。

「興味があること」「今手掛けていること」「好きなこと」を突き詰めて仕事とすること、つまり「人生の糧となるものを探ること」、これが進路だと思います。様々な勉強を通して、自分の力として身に付け、「したい」「やってみたい」という好奇心をもって様々なことにトライしていきましょう。